

高速自動車道建設促進特別委員会

平成19年3月27日に設置されました高速自動車道建設促進特別委員会のこれまでの審査経過についてご報告いたします。

会議の開催状況について、

平成19年5月16日に第一回目の委員会を開催したのをはじめ、4回の委員会を開催し、建設部職員のほか、東日本高速道路株式会社相馬工務事務所社員が出席した中で、市内の各工区での進捗状況を確認しながら、早期全線開通に向けた審査を進めてきたところであり、この間、宮城県及び福島県の常磐自動車道沿線に位置する18の市町村で組織する「高速自動車道整備促進に関する浜通り地方議会連絡協議会」の会長に選任いただき、任期中に2度、民主党幹事長、地元選出国會議員及び東日本高速道路株式会社本社を訪問し、常磐自動車道の建設促進に向けた要望活動を行ってきました。

常磐自動車道は、東北地方と首都圏を結ぶ幹線道路であり、現在の東北自動車道が事

故や冬季の降雪時には、東北

地方のすべての機能を果たすこととなります。また、全国有数の電源立地地域を抱える南東北太平洋沿岸における、沿線地域の産業、文化、観光などの発展に大きな効果をもたらす、豊かで住みよい郷土

と活力ある経済社会活動の実現に寄与することが期待されており、沿線自治体にとって欠かすことのできない道路であります。

平成23年度の常磐富岡・相馬間の開通が目前に迫ってきてはいるものの、平成26年度に予定されている全線供用開



貫通した常磐自動車道原町トンネル

始をもつて、初めて常磐自動車道の役割が発揮されることから、今後も引き続き、「高速自動車道整備促進に関する浜通り地方議会連絡協議会」をはじめとする関係機関との

水資源対策調査特別委員会

連携を密にしながら、一日も早い全線開通を目指して運動を進めるべきであるとの意見を付し、高速自動車道建設促進特別委員会の報告といたします。

水資源対策調査特別委員会は、近年の天候不順等により本市においても今後水不足が懸念されるため、都市用水や農業用水等の水源、水質の安定確保が市民生活や地域経済の維持、発展のために重要な課題であるとの認識から、平成19年3月27日に設置されました。

会議の開催状況については、平成19年5月16日に第1回特別委員会が開催されました。この中で、本市執行部から新田川ダム建設要望の経過と、市内各区の水資源の現状と課題についての報告を受けました。また今後の本特別委員会の取り組みとして、新田川ダム建設の休止決定に伴い発生が予測される水不足への取り組みとして、県に対して既存ダムからの余剰水の確保

に向けた要望活動を行うことを確認しました。さらに、上水道の普及率が約50%と低い小高区において、未給水地区への暫定水源として、浪江町から給水することについて検討を進めることを確認し、浪江町の水源予定地への現地調査等を進めてまいりました。

その後、県から既存ダムの余剰水について回答がありました。しかしながら、本市における水資源の確保は喫緊の課題であるとの認識から、本特別委員会では平成19年11月29日、福島県知事に対し要望活動を行いました。この要望活動では、新田川

ダム建設が休止となる際の付帯意見として「既存ダムの有効活用等による需要水量確保のため、関係機関と連携・協力し検討を進める」とあることから、県の強力な支援は、いわば新田川ダム建設休止の前提条件ともいえるものであり、当該意見を厳粛に受け止め、本市の水資源の確保に向け全面的に支援いただくよう要望してまいりました。

その後、浪江町からの水の供給についての協議を進めてまいりましたが、平成22年4月28日開催の第7回特別委員会において、本市執行部より、本事業は国庫補助の対象とはならないため、浪江町からの水源確保を断念したいとの説明がありました。

今後の取り組みについては、簡易水道統合に向けた実施計画を策定し、認可変更及び補助申請を行い、簡易水道の統合及び拡張整備を推進したいとのことでした。

最後に、今後も市民生活の安全安心と、活力ある産業の発展に必要な都市用水や農業用水等の水源、水質の安定確保に万全を期すこととの意見を付し、水資源対策調査特別委員会の報告といたします。



土田美恵子 議員

健康と命を守る 対策について

問 子宮頸がんの検診率向上を図るための取り組みについて伺う。

答 若い女性を対象に女性特有のがん検診事業を実施し、20歳から40歳までの5歳刻みの年齢の方に、検診の無料クーポン券と検診手帳の配付を今後も継続し受診率の向上を図る。

問 子宮頸がん予防ワクチンの接種について任意のため、全額自己負担が原則ですが、経済的負担を軽減するため、公費助成に取り組む考えがあるか伺う。

答 国で実施に向け調整中。その推移を見て市の対応を検討したいと考えている。

問 介護予防に取り組んでいる方に介護保険料やサービスの利用料を軽減するポ



健診を受けて健康な毎日を送りましょう

イントシステムについて伺う。

答 介護予防施策のひとつとして検討していく。

問 介護支援ボランティアポイントの取り組みについて伺う。

答 広く市民の声を聞きながら検討する。

問 市民の皆様の悲鳴ととらえ、有害鳥獣による農作物の被害拡大

の防止策について伺う。

答 有害鳥獣対策の予算を増加させる旨、更なる要望をしていく。

問 被害農家へ対策指導について伺う。

答 行政区長の声や、地域の声を聞きながら、どういったことが有効なのか、研究していく。

ちょっとホンネ

子宮頸がんの予防ワクチンの費用が、早く公費助成となることを願っています。

その他の質問

- 1 児童生徒に対しての熱中症指導について
- 2 ひとり暮らしの65歳以上の高齢者に対しての熱中症指導について



田中 一正 議員

本市農産物の ブランド造り進捗状況は

問 本市における農産物ブランド化の現状と方策について伺う。

答 トマトや野菜を使ったお菓子などの商品開発に向けて取り組んでいる。今後は、商品の付加価値、地元企業の参入など検証していく。

問 六次産業のブランド化ではなく、野菜や米などのブランド化も考えているのか伺う。

答 農産物全体では、JAとの連携、県全体での取り組みになっている。市単独では難しい。

問 南相馬市のトマトや有機米ということ、産地ブランドを確立し、付加価値をつけて高く販売できるように取り組むは出来ないのか伺う。

答 本市のトマトは、一年を通じて出荷出来る信頼性がある。産直



厳しい暑さの中でようやく定植されたブロッコリー畑

なり戸別販売で、南相馬市の特色を生かせるものを進めていく。

問 県内の伊達市では、九月議会に市の野菜や果物のブランド化を図る「伊達ブランド化事業」を立ち上げ、750万円の予算を計上したが、本市としての意気込みを伺う。

答 現在、力を入れているのは、大学との連携による商品開発であ

る。単品ごとのブランド認証も、今後検討していく。

問 南相馬市ブランドを、積極的に進める農業公社設立について伺う。

答 民間の意欲や活力が大切。行政への要望などを考え、現時点では公社設立は考えていない。

ちょっとホンネ

南相馬市ブランドは遙か雲の上か？

その他の質問

- 1 駅前地区の景観形成について
- 2 サイクリングロードの整備について
- 3 高齢者の安否確認について